

# 伊藤友子教授のご退職によせて

熊本学園大学 元学長(2024年7月31日迄) 細 江 守 紀

伊藤友子先生は、1979年3月に日本女子大学文学部教育学科をご卒業後、日本女子大学大学院文学研究科教育学専攻に進学され、1981年3月に同大学院を修了されました。その後、西九州大学にて教鞭をお取りになり、1994年4月に熊本学園大学外国語学部助教授として本学に着任なさいました。

ご着任後は、30年という長きに亘り本学一筋にお勤めくださいました。特に、2006年1月から2020年3月までは、本学の教職課程委員長をお引き受けくださり、教職を志す学生達へ厳しくも温かいご指導を賜りました。現在、伊藤先生の教えを受けた多くの卒業生が熊本県を中心に中学校や高等学校の教壇に立ち、活躍しております。また、本学の新学科設置に伴う教職課程認定申請、教員免許状更新講習、教職課程再課程認定など、大変多忙な業務も担ってくださいました。

ご退職にあたって少し面倒な願いをすることがあり、初めてお話をすることができました。やわらかい物言いで「学園大学に大変お世話になりましたのでご恩返しができればうれしいです」というようなことを仰っていただき、大変感激した記憶があります。本学での教員生活をこのような思いで終えられる先生がいらっしゃることを大学の皆さんにもぜひお伝えしたいと思いました。

今回の文章を書くにあたって、私が読める業績はないものかと思い、『総合科学』第25巻第1号通巻48号に掲載の『『教師像』の揺らぎ ―変容から見るその役割と期待―』を見させていただきました。難しいご議論のなかで、時代を超えて、これまで教師には高い倫理観と使命が必要されていたということを指摘され、現代の社会の変容のなかで、あらたな教師像が求められているといわれています。この議論は大学の教員の場合にも通じるものがあり、本学では「本学が求める教員像」が示されていますが、現代のあらたな変化のなかで再検討する必要があるかもしれません。

長年にわたって本学の発展にご貢献いただいた伊藤友子先生は、2024年3月をもってご退職となりました。専任教員をご退職後は、客員教授としてもお力添えを賜り感謝申し上げます。これから先生の残された財産を大切に活かして、地域においてさらに輝く大学へと発展させていくことが後進としての私たちの役目です。

伊藤友子先生の今後のご健勝とご活躍を心より願ってご挨拶に代えさせていただきます。